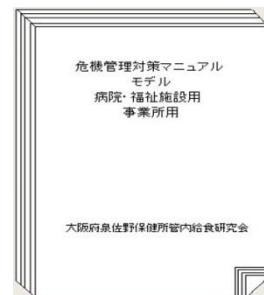


テーマ	泉佐野保健所管内給食研究会における危機管理体制の構築を図るための取り組み														
目的	泉佐野保健所管内給食研究会は大阪南部に位置し、今後想定される東南海地震が発生した場合に被害が及ぶ地域も多いと考えられる。そのため、会員施設間の連携作りが不可欠であると考え、当研究会が中心となり各施設に情報提供をし、危機管理体制の構築を図るための取り組みを行っている。														
対象・参加者数	泉佐野保健所管内給食研究会に所属する会員84施設 内訳（病院25、施設39、教育関係5、事業所7、給食関係8）														
実施主体	泉佐野保健所管内給食研究会														
実施時期	平成14年から平成28年度まで														
内容・方法	<p>平成14年度 ほとんどの施設で備蓄がされておらず、備蓄している施設の取り組み事例を習得するための研修会を開催した。</p> <p>平成15年度 野島断層（震災記念公園）へ見学会を実施。また、和歌山地方気象台の方を講師に東南海地震についての研修会を開催した。</p> <p>平成16年度 泉州地域給食研究会合同講演会で、再度東南海地震について研修を行い、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターへ見学会を開催した。</p> <p>平成17年度 平成17年度より総会議案書の活動方針に「危機管理」を追加し、役員で危機管理対策推進チームを立ち上げ。</p> <p>平成18年度 保健所による「食に関する危機管理アンケート」実施・報告があった。結果より危機管理マニュアルを「作成していない」と答えた施設が1/3程度あり、非常食の備蓄もしていない施設が多いことが明らかとなった。 さらに、期限切れ間近の非常食の使い方の事例発表、ホリカフーズによる災害時の非常食についての研修会を開催した。</p> <p>平成19年度 当研究会で危機管理対策アンケートを実施。 アンケート内容①危機管理マニュアルを作成しているか②非常時の備蓄について</p> <p>(58/91施設 回収率63.7%)</p> <p>危機管理マニュアルの作成 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>作成している</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>作成していない</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>作成しているマニュアルの種類</p> <table border="1"> <tr> <td>食中毒</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>災害時</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>両方</td> <td>20</td> </tr> </table> <p>非常食の備蓄</p> <table border="1"> <tr> <td>あり</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>23</td> </tr> </table> <p>結果より、マニュアルの未作成や備蓄をしていない施設が多いことがわかった。</p>	作成している	48	作成していない	10	食中毒	14	災害時	14	両方	20	あり	35	なし	23
作成している	48														
作成していない	10														
食中毒	14														
災害時	14														
両方	20														
あり	35														
なし	23														

全施設に危機管理マニュアル作成に取り組んでもらうため、危機管理対策推進チームで当給食研究会のマニュアルモデルを作成し、会員施設に活用してもらうことにした。マニュアルモデルの内容は、まずは身近に発生する可能性が高いとして食中毒発生時とした。

平成20年度

マニュアルモデル作成に向け、実際に食中毒が起こった場合の、保健所における食中毒調査の流れについての研修を受け、その後全9回の危機管理対策委員会（平成20年度より危機管理推進チームより名称変更）を経て平成21年3月に危機管理マニュアルモデルが完成した。マニュアルは各施設へ配布し、また当研究会のホームページで閲覧可能とした。（病院や福祉施設、また事業所では対応が異なる場合があるので2種類作成。）



さらに、2回目の危機管理対策アンケートを実施した。

平成21年度

非常食の展示試食会を開催した。



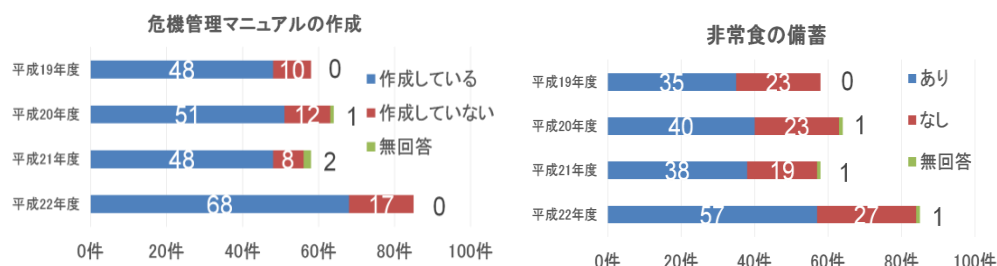
また、3回目の危機管理アンケートを実施し、年度末に期限切れ間近の非常食の使い方についての研修とグループワークを実施した。

平成22年度

近隣施設のマップ作成、連絡網の整備に取り組んだ。

また、4回目の危機管理アンケートを実施した。

平成19年から4回行ったアンケート結果は以下の通り。



19年に比べ、22年では危機管理マニュアルを作成している施設、非常食を備蓄している施設も増え、危機管理に取り組んだ当初より、危機管理に対する意識が高まった。

平成23年度

断層帯についての研修や、保健所職員から東日本災害地への支援活動についての講演、放射性物質による食品への影響などについて行政からの研修を受けた。また、東日本大震災を契機に変えたこと、変わったことなどのグループワークを実施。

平成24年度

非常食の最新の情報と製品紹介の講演会を実施。また、東日本大震災を経験した石巻赤十字病院の栄養士による講演会、さらに、他施設への支援体制のシミュレーションについての事例報告、他施設との連携についてグループミーティングを実施。今後の危機管理対策委員会の活動として、非常時の他施設との相互協力・連携作りに向け、まず食事形態統一化に取り組むことを確認した。

平成25年度

土砂災害で被災した佐用町南光園の職員より、施設間連携の重要性についての研修を受けた。また、食事形態の統一化に向けての研修会と、近隣施設ごとにグループワークを実施。

平成26年度

危機管理対策委員会で、食事形態読み替え表の作成に向け取り組みを開始。1年かけて会員施設の食事形態について情報収集し、食事形態の写真撮影を行った。また、東日本大震災での支援活動についての研修会や、泉州ブロックの災害研修を実施。さらに、非常時の行動シミュレーションなどの研修を行い、グループワークではシミュレーションの問題点について検討した。

平成27年度

食事形態読み替え表が完成した。施設に配布し、使用例などを説明した。

読み替え表はわかりやすい食材として厚揚げを使用した。

施設ごとに提供する食材の大きさが違い、食事区分の名称も多岐にわたっているため、会員施設から情報を集め、最も共通の多い形態や名称を読み替え表に使用。

- 一口大…1. 5～2 cm程度
- きざみ…7 mm～1 cm程度
- 極きざみ…2～3 mm程度
- ミキサー…とろみ剤を使用しミキサーにかけたもの
- ゼリ…ゲル化剤を使用し固めたもの



しかし、読み替え表作成後、食事形態と同じく、柔らかさについても各施設によって違うことがわかり、柔らかさの統一化に向け取り組むこととした。

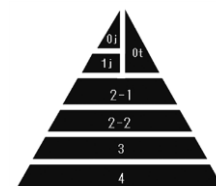
また、これまでの取り組みを大阪府栄養士研究発表会にて発表を行った。

平成28年度

柔らかさの統一に向け、嚥下調整食の目安である日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類 2013 を活用することとした。

そのため、嚥下調整食学会分類 2013 の研修会を開催、また、学会分類 2013 の認知度アンケートで現状把握を行った。

アンケート結果は、学会分類 2013 を「知っている 70%、知らない 28%」「活用している 18%、活用していない 82%」となり、活用していない理由として「必要がない、現在作成中、人員不足、時間不足」などの意見があった。

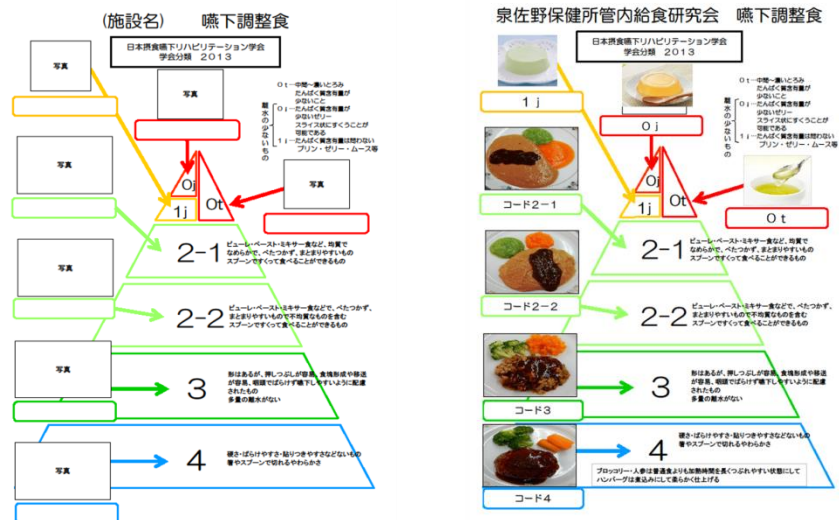


学会分類 2013 を知っている施設が多いことから、柔らかさの統一には嚥下ピラミッドが活用できると考えたが、活用するためには各会員施設の嚥下ピラミッドを作成してもらう必要があり、現状では難しいと判断した。そこで、

- ①各施設の食事形態が、分類 2013 のどのコードに当てはまるかを理解してもらう
- ②時間や人手不足の施設でも容易に作成出来ること

この二点より、共通で使用できる給食研究会独自のテンプレートを作成した。

そして、会員施設の参考になるように、このテンプレートを用いた基本の嚥下調整食表を作成するため、分類 2013 を基に、コードに合わせた調理と写真撮影を行い、当研究会の嚥下調整食表が完成した。※当研究会の HP で閲覧可



柔らかさの共通ツールが出来たことで、例えば「嚥下調整食表のコード 2-1 を 10 食提供してください」と依頼した場合、「2-1 に当てはまる当院のムース食を 10 食提供します」というように、食事形態に加え柔らかさも共有でき、さらに非常時の連携が取りやすくなった。今後は、この表の活用を啓発し、柔らかさの統一化を周知していくことが課題である。

当研究会は、病院・福祉施設・教育関係・保育所や事業所などから成り立っているが、非常時だけの連携ではなく、地域連携としてこの食事形態読み替え表と嚥下調整食表を共有し、在宅へも連携を広げていきたい。

そして、今後も当研究会の会員に向け、非常食の試食会などをはじめ、様々な危機管理研修で情報提供や連携作りを継続し、さらなる危機管理体制の構築を図っていく。

成果・感想

危機管理体制の構築を図るため継続した取り組みを実施している。
 平成 28 年 3 月に開催された第 20 回大阪府栄養士会研究発表会に於いて、仲谷鈴代記念賞を受賞。平成 29 年 4 月には第 5 回大阪府食の安全安心顕彰制度に於いて大阪府知事賞を受賞した。

担当窓口（連絡先） 泉佐野保健所企画調整課（電話番号 072-462-7701）